

## 球磨川に「鮎の稚魚20000尾」を放流

人吉支部では球磨川流域の自然環境保全と、子供たちの河川環境への関心を高め命の大切さや自然を思いやる心を育むことを目的に、球磨川への稚鮎放流を県内業界団体初の試みとして実施した。



稚鮎を放流する園児と支部長



参加した園児たち

4月25日(水)午前11時人吉市下新町にある球磨川下り発船場(人吉城址対岸)に、同支部会員、球磨川漁協関係者、並びに、人吉市内及びあさぎり町の保育園児・幼稚園児約70名が集合。

冒頭主催者を代表して大島充久人吉支部長から「本会の主旨に賛同頂き関係各位のご協力・ご参加を頂いたこと御礼を申し上げます。本事業は本会環境委員会活動の一環として球磨川の自然環境保全のため実施するものであるが、本日はたくさんの園児の協力も得て稚鮎を放流することとなり大変うれしく思う。」旨、関係各位への御礼を含め挨拶。

トラックにより届けられた稚鮎は球磨川水系の生態系を考慮して球磨川に生息する鮎から採卵・孵化させたものを準備。

放流係りの園児たちには、同支部の委員が1人にひとり付き添い園児の安全確保を行いながら稚魚(体長約8センチ、約4グラム)の入ったバケツを手渡し。

園児たちは「大きくなってね!」と声をかけながら楽しそうに球磨川に放流していた。



環境委員会では会場に「私たち建設業は自然環境保護育成にまじめに取り組んでいます」と書かれた横断幕を設置し事業アピールを行うと共に、今後も工事現場での環境保全活動、河川美化、支部管内への植林事業などを実施推進していくこととしている。